

キャンは有用であると考える。

質問：伊藤安彦（東北大学 抗研放射線科）  
false positive scan のご経験ありますか。もしおありなら、どの箇所で、またどれ位の頻度に見られましたか？

答：渡辺克司 false positive はありませんでした。

質問：村田忠雄（千葉大学 整形外科）

骨転移癌中で、病巣部に uptake を示さなかったもので原発巣に何か特殊性があるか。

答：渡辺克司 悪性腫瘍の骨転移の場合、原発部位の違いによって転移巣が negative にでるとということは経験していない。骨スキャンで検出できなかったのは、cyste などの純すいの osteolytic な変化をもったものが多かった。

質問：大森（慈恵医科大学 整形外科）

リニアースキャンは用いたか？

答：渡辺克司 特にリニアースキャンでチェックしているわけではありません。シンチカメラのメモリスコープにておよそそのスキャン部位を決定しております。

\*

## 77. Sr 85 による骨シンチグラム

小野 慈 伊東乙正 朝倉浩一  
菅原正敏<放射線科>  
鈴木一太<整形外科>  
(横浜市立大学)

〔目的〕 Sr は Ca と類似した代謝を示し、骨破壊、骨形成の盛んなところ集まることが知られている。骨腫瘍、骨折、骨髄炎等によく集積されることから、その有用性についての研究は多い。肢関節症については Dym-ling らの external counting の成績が報告されている。われわれは、骨病変の比較的緩慢な経験を示す二次性変形性股関節症について、Sr-85 の使用による骨シンチスキャンを行ない、骨レ線像との比較を中心に局所の病勢判断の診断価値について検討したので報告する。

〔方法〕 二次性変形性股関節症 13 例につき、Sr<sup>85</sup>Cl<sub>2</sub> 100μCi を静注。静注後 7 日、14 日後にフォトシンチグラム、カラーシンチグラムを記録、同時に皮膚焦点間距離 2 米のレ線撮影を行なったデーターとの重ね合わせ法により、Sr 集積の局在性を検討した。

〔結果〕 ①股関節部の疼痛と Sr 沈着の異常との関係は、密接で 26 関節のうち 20 関節は一致した。

②レ線異常所見と Sr 沈着の異常とは、26 関節のうち、22 関節に一致した結果をえた。一致しない関節はレ線所見が異常で、Sr の沈着の異常が見られなかった。

③レ線上の硬化像と Sr 沈着との関係について白蓋を上中下、大腿骨骨頭を上中下の 6 カ所にわけ比較検討した結果、レ線硬化像を有する 64 カ所のうち Sr の沈着がもつのは、38 カある所であり、レ線硬化像のない 92 カ所への Sr 沈着は 30 カ所あり、レ線硬化像とは必ずしも一致しない。

〔考按および要旨〕 二次性変形性股関節症について、Sr-85 による面スキャンを検討した結果、①疼痛②レ線異常所見との間には密な関係があることがわかり、③レ線硬化像とは必ずしも一致しない結果をえた。このことは二次性変形性股関節症の病勢判断に有利な情報を提供しようと考えられ、将来、予後の判定、手術方法および時期の判断資料、手術効果の検索等に応用しうるものと推定される。2, 3 の興味ある症例についても報告した。

質問：薮本栄三（放医研 臨床研究部）

演者の例の <sup>85</sup>Sr スキャンでは、病変部と back ground との count rate の比が非常に接近しているように思われ、その場合のコリメーターの点線源分解能は 2cm を越える可能性があるが、微細な病変との相関を述べるには無理があると思われるがどうか。

答：小野 慈 37hole F: 10cm focused cone を使っています。解像力、X 線との重ね合せに問題はありますが、かなり細いところまでわかる。

質問：伊丹康人（慈恵医科大学 整形外科）

変形性股関節症の scan 像と疼痛が関係があるということであるが、scan 像と関係があるという pathogenesis についてどのように考えておられるかご教示願いたい。

答：小野 慈 痛みとスキャン異常所見との関係はよく一致しますが、原因についてはいまだきまった考えを持っていない。今後研究したいと考える。

\*

## 78. 骨髄炎のシンチスキャンニングについて

大森薫雄 伊丹康人 宮脇晴夫  
(慈恵医科大学 整形外科)

今回われわれは骨膜骨髄炎で経過観察中の患者 70 名に <sup>85</sup>Sr シンチスキャンニングをおこないスキャン所見と臨床所見につき比較検討した。患者 70 名中血行性の慢性骨髄炎は 54 例で骨折後に続発した慢性骨髄炎は 16 例である。<sup>85</sup>Sr の投与量は 1μCi/kg 体重で静注後 24 時間ないし 48 時間後にスキャンをおこなった。まずはじめにプロフィールシンチスキャンをおこない <sup>85</sup>Sr の集積部位をチェックしたのちエリヤスキャンをおこなった。このさい四肢では常に左右を比較した、これらの症例のレ線像とスキャ